

ONE for ALL 5

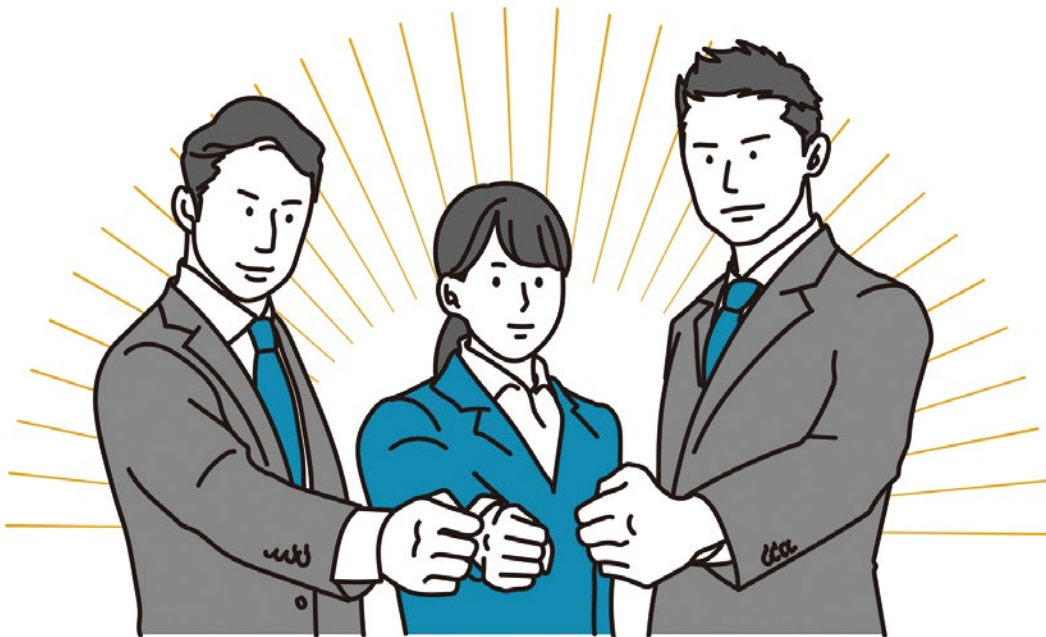
Vol.86

月号

J-LEASE COMPANY NEWSLETTER

2022 May

Co-Creation



今号のテーマ：Co-Creation～共創～

THE CEO Column

title：大分市営陸上競技場ネーミングライツ署名式でのご挨拶

ジェイリース社長の中島でございます。

まずもちまして、大分市長様はじめ皆様方におかれましてはこのような署名式を開催頂きまして御礼を申し上げます。

またこの度は、伝統ある大分市営陸上競技場をはじめとする津留運動公園有料公園施設のネーミングライツ募集につきまして弊社をご指定頂き誠にありがとうございました。

弊社は2004年に創業以来大分市に本籍を置き、常に社会公器としての存在を目指し、地元経済の活性化にいかに寄与するかを検討、実践してまいりました。

今回のネーミングライツ募集におきましては、大分市が提唱されております「スポーツを通じた街づくり構想」が弊社の理念と一致したことからエントリーをさせていただきました。ご指定を頂きましたことに重ねて感謝を申し上げますと共に、今後とも大分市の街づくりを微力ながら応援させて頂きたいと思っております。

4月以降、大分市営陸上競技場はジェイリーススタジアムに名称変更されます。

皆様方におかれましては「ジェイスタ」の愛称で引き続きのご利用をお願いできれば幸甚に存じます。

本日は誠にありがとうございました、今後ともよろしくお願い申し上げます。

令和4年2月25日

ジェイリース株式会社

代表取締役社長兼会長 中島 拓



(左より)大分市長 佐藤 樹一郎様と当社代表取締役社長兼会長 中島 拓

ジェイリース レポート

大分市営陸上競技場等のネーミングライツ締結のお知らせ

ジェイリースでは、2022年2月25日に大分市と「大分市営陸上競技場及び津留運動公園有料公園施設ネーミングライツ・パートナー契約」の締結をおこないました。

大分市の代表的なスポーツ施設に当社名を付与することにより、当社の知名度向上を図るとともに、今後とも多くの地域の皆様と一体となって『スポーツを通じた街づくり』を推進してまいります。

① 対象施設と愛称／

大分市営陸上競技場：ジェイリース スタジアム

津留運動公園多目的広場：ジェイリース スクエア

テニスコート：ジェイリース テニスコート

② 所在地／大分県大分市西浜1番1号

③ 契約の期間／2022年4月1日から2027年3月31日まで（5年間）



ジェイリース スタジアム

業務提携に関するお知らせ

ジェイリースでは、入居者様及び不動産管理会社様の利便性向上と業務効率化のために、異業種企業との業務提携を積極的に行っております。

最新の情報は、当社HPにてご確認ください。



ジェイリース IRページ

e-Net少額短期保険株式会社様

賃貸住宅向けの家財保険加入に係る申込情報連携および保険料収納代行を2022年3月より開始いたしました。

保険申込手続きが簡略化し、また、当社が保険料の収納を代行することにより、不動産管理会社様は保険契約に係る入金確認等の業務が不要となりますので、業務効率化だけでなく入居者が無保険になるリスクを未然に防止することができます。

SBI日本少額短期保険株式会社様

賃貸住宅向け家財保険商品の保険料の「収納代行及び保証スキーム」を2022年夏頃のリリースに向け開発を進めており、リリースに先立ち2022年3月より相互に顧客紹介をする運びになりました。

本提携により当社が賃料等及び保険料を収納代行・保証することにより、不動産会社及び入居者の利便性が向上します。また、本提携により両社の取引先を相互紹介し不動産賃貸業務領域における充実したサービスの提供と既存取引先の深耕を図ってまいります。

トップ会談 ANNEX

～コロナ禍における大分観光と地域活性化について～



株式会社マリンパレス
代表取締役社長 橋本 均

ジェイリース株式会社
取締役副社長 衛藤 秀樹

於 大分マリンパレス水族館うみたまご「あそびーち」

衛藤

本日はご多忙の中お時間をいただきありがとうございます。よろしくお願いいたします。

「大分マリンパレス水族館うみたまご」にお邪魔しておりますが、いつもながら別府湾に面した素晴らしい眺望ですね。

「動物と仲良くなれる水族館」をテーマに様々な海の生物とふれあえる貴館は観光客、そして大分県民に長く愛されている施設ですね。

橋本

ありがとうございます。こちらこそよろしくお願いいたします。

当館は1964年、第1回東京オリンピックの年に開業しました。

創業者 上田保は大分市長として当時農作物を荒らすやっかいものであったサルの餌付けに成功し、「高崎山自然動物園」を作りました。そして陸の次は海をテーマに、当地に水族館を作ろうと考えます。しかし、当時水族館の経営は全国的に厳しく、市の賛成を得られなかったことから、市長を退職した後、個人で資金を集め、「大分

生態水族館マリンパレス」を開館し、その40年後の2004年に「大分マリンパレス水族館うみたまご」としてリニューアルオープンしました。当館は設立当時から、よそにはないユニークな水族館として高く評価され、昭和40年代は10年間に渡り入場者数日本一の水族館でした。その後も施設の豪華さや大きさ等で他館とは競わず、当館の新たな価値として人と動物の「ふれあい」をテーマに掲げました。

これからもアイデアたっぷりの歴史と伝統を財産に、別府湾の自然を活かし、時代に合った新しい「ふれあい」を提供してまいりたいと思っています。

衛藤

ふれあいと言えば、貴館の名物である「あそびーち」は動物を間近で見て触れあえる、他の水族館には無い新しい形で、「あそびーち」を目的に来館される方も多いのではないのでしょうか。

橋本

動物と心を通わせて遊べる場所、ガラスや柵のない水族館を目指したのが「あそびーち」です。動物とのふれあ



いとは、物理的に触ることだけでなく、心と心を通じ合わせることでと考えます。動物にストレスや不安を与えないよう、それぞれの動物の本質や性格を見極めてそれに合ったふれあいを提供しており、その点では日本最先端とも言えると考えます。

衛藤

セイウチの腹筋運動を代表する動物たちのパフォーマンスもまた人気ですね。

橋本

動物たちのパフォーマンスではあくまで自然界に近い動きを、動物達の健康維持のための運動もかねてお客様に紹介しています。動物については様々な考えがあり、無理やり芸をさせている等の誤解を受けることもあります。我々は「ショー」という言葉は使わず「パフォーマンス」と表現しています。当館ではセイウチなどの飼育動物の繁殖も行っていますが、繁殖ができることは動物にとって良い環境である証明です。また、うみたま体験パーク「つくみイルカ島」はイルカに特化した施設として大学と提携し繁殖に取り組んでいます。もともとは繁殖やパフォーマンスの練習が主な目的の施設でしたが、地域活性化のため津久見市と協議し、参加型体験型レジャー施設としての展開もしており、広い海を活かしイルカの運動能力を最大限に活かしたパフォーマンスをお見せしています。

衛藤

私も何度か遊びに行きましたが、イルカではなく人を飛ばすダイナミックなパフォーマンスやイルカと泳ぐアクティビティー等、とても楽しい施設です。

アフターコロナを見据えて大分県の観光をもっと盛り上げていきたいですね。

橋本

大分と言えばやはり別府や湯布院が有名ですが、その他にも魅力的な観光資源が多くあります。県南の佐伯・臼杵で海の幸を、国東半島で神仏観光を楽しみ、別府や湯布院に宿泊し温泉を堪能するような広域観光を楽しめる環境の整備を願っています。特にインバウンドでは神仏観光は魅力的で、我々が海外旅行で教会や寺院に興味があるのと同様、特に欧米豪のインバウンド観光客も実は温泉よりスピリチュアルな要素に関心があることが多いです。

大分空港を拠点とする国東観光のルートをより開拓する必要がありますね。



衛藤

コロナにより一時は外出もままならず、観光産業の打撃は大きかったことと思います。観光業を復活させてこそ、コロナを乗り越えたと言えるものですね。

橋本

コロナが生み出した最大の悲劇は人間社会の分断です。分断されたからこそ、大切さが身に染みてわかりました。

コロナ禍ではリモートワークや様々なオンライン化など便利になりましたが、家でじっとしているだけの生活が基本となれば、きっと人類は脳みそばかりが発達して、手足は衰えるような、宇宙人のような体になってしまいますよね(笑)。

仮にコロナ問題がなくても、ロボットや人工知能等により徐々に人間の力が不要になっていく現代において、人間が人間らしくあるためには、多くの人と交流を持ち、様々な動物たちと心を通わせ、命とは、生きるとは何なのかを理解することが重要です。それは観光の本質でもあります。見知らぬ土地を訪れ、出会った方と心でふれ合い、現地のもを食す、そのように観光を楽しむことで“心のワクチン”をうち、コロナに脅かされた気持ちを取り戻していく必要があります。

そういった意味でも観光産業はアフターコロナ、さらには人工知能やDXが発達していく現代において重要な役割を果たすと思います。

衛藤

“心のワクチン”、心地よいフレーズですね。どこか旅に出てみたい気分です。

コロナにフォーカスしたDXは人に会わないツールばかりが強調されますが、本来のDXは仕組みを変え、利便性を高め、新しいことにチャレンジできる前向きなものです。確かに、オンラインの対話は便利ですが、やはり会って、その場の空気に触れなければ感じ取れないこともあります。

当社の子会社あすみらい株式会社ではアジアを中心に海外のお客様向けの不動産賃貸・売買仲介を行っています。契約もオンラインを活用し、物件の内覧を映像で行うこともできますが、やはり自分の目で見たい、空気を感じたい方もいらっしゃいますし、オンラインとリアル、両方を充実させる必要性を感じています。

さて、橋本社長は大分県日韓親善協会の会長をされていますが、大分と韓国の関係についてのお考えをお聞かせください。

橋本

大分県と韓国は特に縁が深いと感じます。大分県に訪

れる観光客は九州の方を除くと、韓国の方が圧倒的に多く、関西や関東を抜くこともあります。いわばインバウンド最大のお客様です。昔韓流ドラマで男性が女性を口説く際に「僕は別府に別荘を持っているから今度一緒にいこう」と言うシーンがありましたが、このように韓国からしても大分の知名度は高く、大分の観光業にとっては最大の財産と言えます。今後のインバウンドでは他のアジアや欧米の国々をターゲットとする意見もありますが、やはり大分はその知名度と近さを活かし、韓国に重きを置く必要があると考えます。

衛藤

当社がCSR活動の一環として携わっているNPO法人大分県海外教育支援機構では、毎年、韓国済州島にて現地の高校生向けに在済州日本国総領事館が主催する「日本語スピーチコンテスト」に協賛し、コンテストで特別賞を受賞した優秀者を「日本国九州体験学習ツアー」へご招待しております。橋本社長にはいつもご協力を賜りありがとうございます。

機構の活動もコロナにより制限されていますが、コロナを乗り越え、日本に興味を持っている方が何かに縛られずに学びや観光を楽しめる環境が戻ってくることを祈るばかりです。

橋本

日韓親善協会では逆に日本語を母国語にしている方の韓国語スピーチコンテストを開催、優秀者を韓国済州島にご招待する活動を行っています。大分県海外教育支援機構とはバーターのような関係で手を取り合って日韓の親善を深めています。

衛藤

「日本国九州体験学習ツアー」では、ホームステイや高

校・大学訪問等行っていますが、うみたまごへの訪問が大好評です。やはり海外から見ても魅力的な水族館なのですね。

橋本

海外の方にとって水族館は教育施設というイメージが大きいようで、大分に初めて観光にいらっしゃる方には最初は選ばれにくく、2回目、3回目に大分に訪れた際に、行ってみようかと思っていただけるケースが多いのですが、実際に足を運んでいただくと世界的にも珍しいと喜んでいただけます。韓国に向けて、うみたまご独自でPR動画の作成やYouTube、SNSを活用した宣伝に取り組んでいます。観光目的の渡航が再開された折には多くのお客様にお越しいただきたいです。

衛藤

当社ではSDGsにも積極的に取り組んでいます。貴館における取組を教えてください。

橋本

「14.海の豊かさを守ろう」はまさに当館の本質です。水族館として海のゴミを展示したり、その量を数字で発信することはよく行われていますが、それは知識に過ぎず、実感を持ちにくいと考えます。当館がコンセプトとしている「ふれあい」を通して、海の生き物の命を感じ、このように大切な生き物を苦しめてはいけなく、海を汚してはいけなく、そう心で理解していただく機会を提供すること、それが当館のできるSDGs推進と考えています。

衛藤

本日はありがとうございました。

※本会談は新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で実施しています。



大分マリンパレス水族館 うみたまご



公式HP



YouTube

たしかな家賃保証



J-LEASE